

2020 年度 学校自己評価報告書(法政大学第二中・高等学校)

教育理念・目標	<p>教育理念: 本校における教育は、人格の完成をめざして国民的共通教養の基礎を築き、平和で民主的な国家および社会の形成者を育成することを目的とする。</p> <p>教育目標①: 人類および民族のあらゆる分野における歴史的・文化的遺産を体系的に学び取り、自然と社会・人間に対する認識を深める。</p> <p>教育目標②: 獲得した認識を総合し、自然との共生・諸民族の共同など、人類社会のもつ諸課題と向き合う視野を培う。</p> <p>教育目標③: 学ぶことの意味と喜びを知り、常に学問的好奇心を発揮し、生涯にわたって成長を遂げることのできる土台を獲得する。</p> <p>教育目標④: 自己を客観視し、社会の中でどのように生きるかを考える能力をつける。</p> <p>教育目標⑤: 自己の諸課題の解決・現状の変革を担おうとする自主的精神と互いを尊重し共同での取り組みができる自治的能力を獲得する。</p> <p>教育目標⑥: 高い品性と社会性を身につけ、不正・腐敗を許さず、社会正義を確立する自立の力を獲得する。</p>
----------------	--

重点目標	<p>1、教育目標を達成するために生徒一人一人に高い学力をつけさせるための具体的実践の研究をする。</p> <p>2、男女共学化 5 年目に際し、新たに表出する課題に対して対応する。</p> <p>3、新図書館やICTを活用した教育の研究と実践を深める。</p> <p>4、中高 6 ヶ年を視野に入れた生徒の自主活動を伸ばすための工夫をする。</p> <p>5、法政大学・育友会(PTA)・同窓会・地域との連携を強化する。</p>
-------------	---

共通課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 年 月 日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	建学の精神 (建学の精神や理念の理解と意識化)	<p>新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により年度当初に緊急事態宣言が発出された。政府からの要請により休校(4・5 月)を余儀なくされ、例年の中学 1 年生「校外授業」、高校 1 年生「新入生合宿」等を通じての建学の理念「自由」と「進歩」についての学習は行えなかった。2 学期から全員登校が始まり、時間に限りはあったが、「学びのつながり」等を使用し、できる範囲で建学の理念、大学史、二中高史等の学習を行った。</p>				<p>コロナ下において対面活動が制約される中で、例年通りに学習を進めることは困難だったが、様々な取り組みによって建学の理念についての理解と意識化への取り組みを行えた。</p>
2	組織運営	<p>本校における組織運営の原則は、全教員による組織的討議にもとづいて教育方針を定め、これに沿いながら実践を進めるとともに、中間点検を挟み、年度末に 1 年間の教育活動を総括し、導き出された教訓を次年度に向けて方針化していくことにある。このサイクルは、本校の在り方を支える根幹であることから、今後も引き続き堅持していく。</p> <p>本年度は上記原則にもとづきながら、新型コロナウイルス感染症拡大の防止の観点から、一部オンラインでの参加やソーシャルディスタンスに留意した形態を模索し、開催された教員会議を通じて方針を定め、中間点検で実践の到達状況を確認し、年度末に総括を行い次年度方針の確認・共有と実践のための意思統一を図ることができた。</p>				<p>コロナ下という前例がない状況では遇ったが、方針の策定、実践、総括および次年度の策定を進めるといふ、組織運営の根幹がきちんとされた。</p>
3	教育活動 (教科、生活、進路、行事、自主活動等)	<p>教科教育においては、学校改革の一環として、「教科教育における 6 カ年体系化」の中長期計画に基づき、カリキュラム改革をおこなった。新型コロナウイルス感染症拡大のなかで、休校措置や分散登校、短縮授業などがとられたが、オンラインでの学習指導を実施し、対面授業と連動するかたちで学習内容の精選・体系化をすすめた。学習方法についても、感染症対策を徹底しながら活動型の学習を位置づけ、他者と協働しながら思考力・表現力を培う実践を進めた。学力向上に資するカリキュラムの再構築と実践を展開し、学力の到達状況に応じて特別指導や課題設定などの学習支援を継続した。こうした取り組みを通して、法政大学推薦に値する学力へ到達させることに努めた結果、各教科目の学力到達度、および法政大学への推薦率について前年度の水準を維持することができた。来年度も、学校コンセプトである「調べ、討論し、発表する」教科活動の一層の充実に向け、ICT 機器の活用や学習情報センターとしての図書館を活用した教科活動を推進する。</p> <p>生活指導においては、共学化 5 年目を迎え、「新しい学校」としての生徒実態の把握に努めた。「中・高 6 カ年の生活指導の体系化」をはじめ、生徒の学校生活の様々なルールを明確化して、生徒への周知徹底に努めた。新型コロナウイルス感染症拡大のなかで、休校措置や分散登校、短縮授業などが学校活動の展開として取り組まれたが、その段階毎に取り組む内容を検討し、休校措置期には、クラス活動においてはオンラインでの HR を行い、顧問と部員の関係作りにおいてはオンラインでのミーティングの実施を行うなど対応してきた。女子生徒を含めた共学化での 5 年目のクラブ活動においては、改善課題の把握と環境整備に重点を置いた。新型コロナ禍での宿泊行事については、その都度実施の可否を判断してきたが、結果としてすべての宿泊行事を中止とする判断となった。それぞれの学年の取り組みとして重視してきた、行事实施とともに学年</p>				<p>中長期計画に基づくカリキュラム改革や共学化に伴う様々な取り組みに加えて、環境変化をチャンスと捉え、リアルとオンラインの新たな組み合わせを模索するなど、次世代の学校教育活動への取り組みに期待したい。</p>

		集団を成長させる手立てとしてきた本校の生活指導の展開については、宿泊行事抜きにしての展開となった。2 学期に、中学では「オンライン文化祭」、高校では学年別「体育祭」の形態で学年集団での行事を実施して、クラス結集、学年結集に努めた。	
4	安全・保健管理 (保健、安全、防災、 施設等)	定期健康診断は休校明けの 7 月に実施したが、体力測定(スポーツテスト)においては感染症予防の観点から中止とした。健康安全講習会は教員は実施したが、生徒への講習会は中止とした。生徒は AED の使用方法を含む心肺蘇生法や救急法について、保健体育の授業を通じて学習を行った。また、コロナ禍でのこころの問題に対処する体制を整え、休校期間中からカウンセリングルームを開室した(対面による相談は休校明けから)。その後も生徒、保護者と必要な連携が取れる体制をつくっている。 避難訓練については、「火災時の避難経路の確認」「大規模地震発生時の対応」に関わって合計 2 回実施した(例年 3 回行っているが休校期間中の 1 回は中止)。避難時の注意事項の確認・徹底も行い、整然と実施することができた。次年度も継続して大規模地震発生時の対応について検討を深めたい。	世界的な感染症蔓延中、安全・保健管理にしっかり取り組んだことにより、リスクを回避することができた。
5	連携 (保護者、卒業生、地 域等)	保護者との連携でも、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響が大きく受けたが、9 月以降、育友会(PTA)との連携を基礎に、育友会理事会の円滑な運営に寄与した。例年より縮小して行った「育友会集中ミーティング」においては、学校と保護者の充実した意見交流が行うことができた。日常的な保護者連携としては、3 回(7 月・12 月・3 月)の保護者会やクラブ保護者会を軸に、クラス担任、養護教諭、カウンセラーを中心に、各学年がチームとなって生徒個々の実態把握と対応を行った。 卒業生との連携では、これまでは同窓会を中心に行ってきたが、同窓会内部での問題でまったく連携をとることはできなかった。21 年度以降は新たな連携方法を追求する必要がある。 地域等との連携では、「地域に愛される法政二中高」をめざし、地域の方々からお寄せいただく各種ご意見への対応につとめた。19 年度まで行ってきた地域清掃、地域のお祭りの吹奏楽部の参加、二中文化祭・二高祭の商店街の出店等は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で実現できなかったが、21 年度以降は社会状況を踏まえながら、実現できることから進めていきたい。	例年に比べて連携を制約せざるを得ない状況ではあったが、オンラインの活用等、従来とはやり方や規模を変えるといった様々な工夫で最低限のことは、行えた。
6	大学との連携	「法政大学憲章を学ぶための付属校生むけ教材開発プロジェクト」による冊子『学びのつながり』が作成され、高校 1～3 学年すべての生徒の手に渡った。内容は、法政大学が掲げる「自由を生き抜く実践知」にもとづき、①法政大学の理念、②法政大学の歴史(大学憲章への道)、③「地球社会の課題」とは何か、④中高生の「実践知」から構成されている。学校長によるレクチャー動画を配信し、ホームルーム等での学びを深めた。 高校 1 年生では、毎年実施していた高校 1 年生全員を対象とした「ウェルカム・フェスタ」は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが、この『学びのつながり』によって、これまでウェルカム・フェスタで実施していた内容を体験する機会となった。また、3 学期に「キャリアについて考える」をテーマに、法政大学の大学生や卒業生による進路講演会を実施し、高校での生活や将来の職業について考える機会を持った。 高校 2 年生では、各キャンパス(市ヶ谷・多摩・小金井)に通う大学生を招き、キャンパスや学部、大学生活についての講演会を行った。 高校 3 年生は、各学部の大学教員を招いた学部別の進路講演会を新型コロナのために変更し、学部説明の動画を大学側に作成していただき、配信での対応とした。また、学部内定後の「3 年 3 学期プログラム」の取り組みでは、テーマごとに研究を行い、プレゼンテーションを実施した。撮影したプレゼン動画を大学教員へ配信し、内容に対して講評をいただいた。また、大学入学前オリエンテーションや入学前課題などでも大学と連携した。 高校全体に関わっては、今年度で 6 回目となる「One-Day Science College in Koganei Campus」(小金井キャンパス)が夏休み期間に開催された(希望者対象、オンライン)。なお、これまで夏休み期間に行われていたイングリッシュ・キャンプ(多摩キャンパス)や、多摩キャンパス体験学習プログラムは中止となった。そのほか、今年度も総長杯英語プレゼンテーション大会を実施し(オンライン)、本校生徒が最優秀賞を獲得した。 コロナ禍での制限された中でも、模索しながら連携をすすめた。	大学との連携は、付属校ならではの最大のメリットの 1 つだと考える。引き続き様々な分野における大学との連携の推進に期待したい。 付属校独自課題 No.

付属校独自課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 年月日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	新校舎グラウンド・外構整備	キャンパス全体の竣工から 4 年目を迎え、校舎ならびにグラウンド・外構の運用・活用について、前年度に引き続き現状の把握・検証・調整に努めた。施設・設備の点検についても必要に応じて実施し、法人内の関係組織・関連業者の協力・連携により、生徒・教職員の安全・安心な学校生活の保障を第一とし、対応することができた。				施設・設備の点検は安心、安全への第一歩なので、引き続き定期的かつ継続的に行って欲しい。
2	入試広報	共学化 5 年目を迎え、共学世代の活躍を具体的に知ることができたことで、それらにスポットを当てた広報活動を展開した。「この学校でどのように成長できるか」というストーリーイメージを明確に伝えることをコンセプトとし、より具体的な事例を紹介することができた。前半期は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、学外で行われる説明会・相談会が軒並み中止となったが、その分、受験雑誌や地域誌への広告・記事掲載に力を入れた。また、オンラインを活用した説明会・相談会も企画し、受験生の認知が薄まらないように努めた。学校説明会については新型コロナウイルス感染防止の対策をとりながら、規模を縮小して実施した。入試については、志願者数が中高ともに昨年比で減少した。新型コロナウイルス感染防止の観点から例年と異なる対応が必要となったが、全教職員の協力のもと、無事に終了することができ、結果として適正な選抜方法によって、適正な人数の入学者を確保することができた。今後も本校の教育の中身をより具体的にアピールしていくことが大切となる。その方法については継続的に検討を重ね、積極的に入試広報活動を展開する。				困難な中、受験生及びその保護者に十分に本校の教育の魅力を伝えられた。

3	新制服の制定	2016 年度に検討が始まった女子生徒のオプションサマースカートについて、2018 年度より着用がスタートした。今後も引き続き、制服の適切な着用について、丁寧な指導を行っていききたい。また、全国的にジェンダーレスの動きが拡大していることを踏まえ、本校においても対応を検討していききたい。	ジェンダーレスについては社会的にも様々な議論がなされると考える。 既成概念にとらわれることなく、生徒の意見も聞きながら二中高としての考え方を検討していきたい。
4	2020 年度学校構想 (国際交流の推進)	新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、姉妹校オレワ・カレッジとの交流における長期留学、およびカナダ語学研修は予定のプログラムは学校として中止を判断した。留学プログラムもほとんどが執行できず、辛うじて2名が渡航できた。学内での国際交流活動は、留学体験談をオンラインでプレゼンするなど可能な限りの活動を展開した。また長期留学生も相次ぐプログラム中止の中、イタリアより1名受け入れを実施することができた。	国際交流の継続的に行えたことを評価したい。今後さらに一人でも多くの生徒が参加できるように、多様な活動を推進してほしい。